



◆今回は「1次試験の勉強の仕方」 絶対に見逃すな！先輩の「合格体験記」に合格への秘訣あり

1人目は、昨年度、東京都教員採用選考に合格し、現在、都内の中学校で国語を担当しているNさんです

1 次試験へ向けた勉強の進め方

教職教養

教職教養の学習の進め方としては、主に教職課程センターの講座、問題集、自治体の過去問の三つを中心としていました。問題集は、講座を受けた日の夜に復習として進めていくことで記憶の定着を図りました。参考書は一問一答形式のものを電車で時間のある時に確認するくらいで、そんなに時間を割いては使いませんでした。過去問に取り組んだのは、問題集を一周して間違えた問題を解き直してからでしたが、今思うと慣れるためにもう少しやっても良かったような気がします。特に、時事問題についてはどんな問題が出るのか、どんな資料があるのか(文部科学省や教育委員会のHPの答申等)、時間のある時に目を通しておくといいと思います。過去問は教職課程センターで貸し出しして下さる図書を利用しました。自治体で悩んでいる方は問題の比較もしてみてください。



小論文

小論文は多くの皆さんと同じかと思いますが、特に苦手意識がありました。理想としてはたくさん書いて書き慣れることが一番だと思います。書いた分の自信もつき、時間の感覚も実際に掴むことができるからです。ただ私もそうなのですが、他の勉強に追われてしまったり、苦手で腰が重かったりもあるかと思います。そんな方は、習慣化すること、それから、小論文一本で毎回何かしら学びを得ることを軸に据えて進めてみてください。

「毎週水曜日の9時から一本書く」、「前日から気持ちを高めて準備しておいて朝一で書く」、など習慣化していくと書くことへのハードルは徐々に下がります。あとは教職課程センターで予約を取って書かざるを得ない環境を作るのもいいかもしれません。もう一つの毎回何か学びを得る、というところは、スモールステップでいいと思います。教職課程センターの小論文講座でも序論・本論・結論の書き方を順序だてて教えてくださいます。自分の中でもそれを細分化して、今回は序論の中でも現状をしっかり書こう、など目的意識を持ってみてください。「完璧です！」のハンコをいただけるまでちょっとずつ挑戦しましょう！

専門科目

特に国語科の話になりますが、何より問題演習をしてそれを修正していくことに尽きると思います。私が意識をしていたのは学習指導要領とリンクさせている問題です。一言一句暗記するというよりは、その科目でどういう能力をつけさせたいのか、授業ではどんなことを実践するのか、といったように考えていました。

2人目は埼玉県立高等学校の国語科教員となって3年目のTさん、専門科目で思わぬ大苦戦の1次試験です

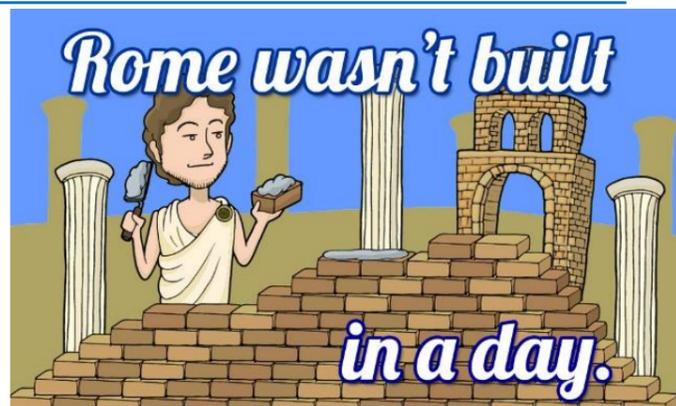
埼玉県の1次試験は筆頭試験のみで、科目は「教職・一般教養」「専門科目(国語)」の2つです。私は3年の秋ごろから勉強を開始しました。とはいえ、最初は何をして良いかわからなかったため、センターの指導員の先生に相談し、勉強の筋道を立てていただきました。まず、教職教養は参考書でひたすら学習し、ある程度力がついてきたと思ったら全国の過去問で問題演習をしました。そこからは問題集と参考書を行ったり来たりしながら、わからない事一つひとつなくしていきました。地道な方法ですが、効果はあったと思います。

一般教養も同様のやり方で進めましたが、埼玉県は一般教養の中でも文系内容が比較的難しく、理系科目の方が得点しやすい問題になっていたため、数年ぶりに数学や理科の問題に対峙することになりました。一般教養は自治体によって出し方や範囲がかなり異なるので、過去問分析が重要です。専門科目の対策は、過去問を数年分と問題集一冊で済ませましたが、正直、これは甘かったと思っています。本番の試験では、教職・一般教養で十分な手ごたえがあった一方、専門科目はまるで歯が立ちませんでした。結果は、教職・一般教養が86点、専門科目が49点でした。試験が終わってから結果が出るまで、不安な日々を送ることになったので、皆さんにはバランスの良い学習を行ってほしいと思います。また、教育実習の前後はかなり多忙で、勉強をしている余裕はありません。早め早めの学習をおすすめします。

★「焦ってはいけません。小さな歩みの一步一步が積み重なり、相乗効果を生み出していきます」

「1次試験対策は3年の冬から春休みが勝負」と言われます。4年生になると5月下旬から教育実習が始まり、実習中はほとんど勉強ができなくなるからです。まずは、自学自習の習慣とモチベーションアップが重要です。センターでの講座内容が復習になるくらいのペースで勉強を進め、「よし、理解した」と自信がついてくれば後は大丈夫です。「確実で無理のない計画」「着実に主体的な実践」が勝敗を分けます。冬休みからの計画的な取組みを期待します。

上記の格言は、京セラやKDDIの創業者である稲森和夫さんの言葉です。教員採用試験は1次、2次ともに地道な準備が要求される試験であり、ここ数年、より一層、人物重視の様相が一層強まっています。まずは1次の筆記試験に受かることが先決ですが、1次の終了後から2次の対策では間に合いません。計画的に早めに対策を講じる必要があります。教職課程センターとしては、これらの対策に関しても全力で支援していきます。これからも積極的な活用をお待ちしています。



◎1月 教職課程センター相談指導の予定◎

事前申込制(来室・メール・電話)

	9:00~12:20	13:20~16:00		9:00~12:20	13:20~16:00
10(火)	個別相談	個別相談	20(金)	個別相談	個別相談
11(水)	個別相談	個別相談	24(火)	個別相談	個別相談
12(木)	個別相談	個別相談	25(水)	個別相談	個別相談
13(金)	個別相談	個別相談	26(木)	教職教養対策講座	個別相談
18(水)	個別相談	個別相談	27(金)	論作文対策講座	個別相談
19(木)	個別相談	個別相談	31(火)	教職教養対策講座	個別相談

★ 第2タームの申込みを忘れていませんか & これから対策講座に参加する方も大歓迎です、直ぐに申し込みを

★ 講座は対面を予定していますが、感染症の状況によりZoomで実施する場合があります